



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2020

No.6 (2020年6月18日発行)

宇都宮大学国際学部とオンライン交流 ～栗原研究室のプレゼン視聴と質疑応答を行いました～

令和2(2020)年6月16日(火)16~17時に、海外の教育支援を目指すSGHクラブ海外班の1,2年生12名が、画面对話を行うアプリであるZoomを使って、宇都宮大学国際学部准教授の栗原俊輔先生及び大学生と、オンラインで交流しました。この大学生は、宇都宮大学のUU-TEA Projectでスリランカ紅茶プランテーション農園の子どもたちへの課外活動支援事業(JICA草の根技術協力支援事業)を、現地で実際にこの3月まで実践していた方々です。

スリランカの学童支援活動は、佐野高校をこの春卒業した先輩がSGH課題研究で取り組んできた研究を、SGHクラブ海外班が受け継ぐ形で継続発展させたものです。そのため、今回のオンライン交流には、その先輩の一人で、宇都宮大学共同教育学部1年の茂木愛唯さんも参加しました。



◇参加者

栗原俊輔先生(宇都宮大学国際学部准教授)
福村一成先生(// 農学部准教授)
宇都宮大学の学生 6名
(うち1名は佐高出身の茂木愛唯さん)
本校SGHクラブ海外班1,2年生 12名
顧問教員 高久順 大嶋浩行

◇活動内容

- ・栗原先生から上記事業の概要説明
- ・実際に現地で活動実践した大学生のプレゼン
- ・高校生と質疑応答

◇質疑応答(抜粋)

Q 学校の先生は都心で教養ある人なのか。また、子ども達の将来についてどのような考えを持っているのか?

→大学生「都心で“最良の教育”を受けた訳ではないが、別の地域で教員養成学校を経て教師となっている。彼らは子ども達が進学できる可能性が高くないことを知っているため、先々の指導はあまり行わない(日本の進路指導のようなことはまず無い)。」

Q 現地の医療事情について、知っていることがあれば教えてほしい。

→大学生「トイレは共用で、ご覧(パワポを画面共有)の通り、住宅地区は全く衛生的でない。実は病院の医療費は無料の国だが、この地区に病院は未整備だ。そのため、宗教や寺院に頼ることも多い。」

Q 親たちは子どもに対していい教育を受けさせたいと願っているのか。

→大学生「学校はあくまで義務教育までが主で、地区に高等学校はなく、地区外への交通事情も悪い。小学校は茶畑で働いていく必要な事柄を教えている感じ。親も出稼ぎに行くことが多く、教育への関心は高くない。」

Q 子ども達には、具体的にどのような学習活動を提供するとよいか。

→大学生「ゲーム性のあるもので、〇×クイズとか勝ち負けがはっきり出る活動は、子ども達を惹きつける。」

◇生徒の感想(抜粋)

「経済面で子供たちが“質の良い教育”を受けられていない、ということが一番大きい課題だと思いました。スリランカ産の紅茶を飲んでいるので、日本人にも過酷な労働や子ども達の置かれた環境を知ってもらいたいと思います。これからの活動では、大学生が目指すゴールと同じように、少しでも“質の良い教育”を日本の高校生として提供できるようにしたいです。リモートでやること自体が新しい試みだとは思いますが、いずれ研究をまとめるときには、佐高SGHクラブ独自の研究として何か一つ提示したいです。」

(2年 相田 紘夏)

